

# I 研究の概要

## 1 研究主題

### 主体的に伝え合い、学び合う児童の育成 ～充実した言語活動を通して～

## 2 主題設定の理由

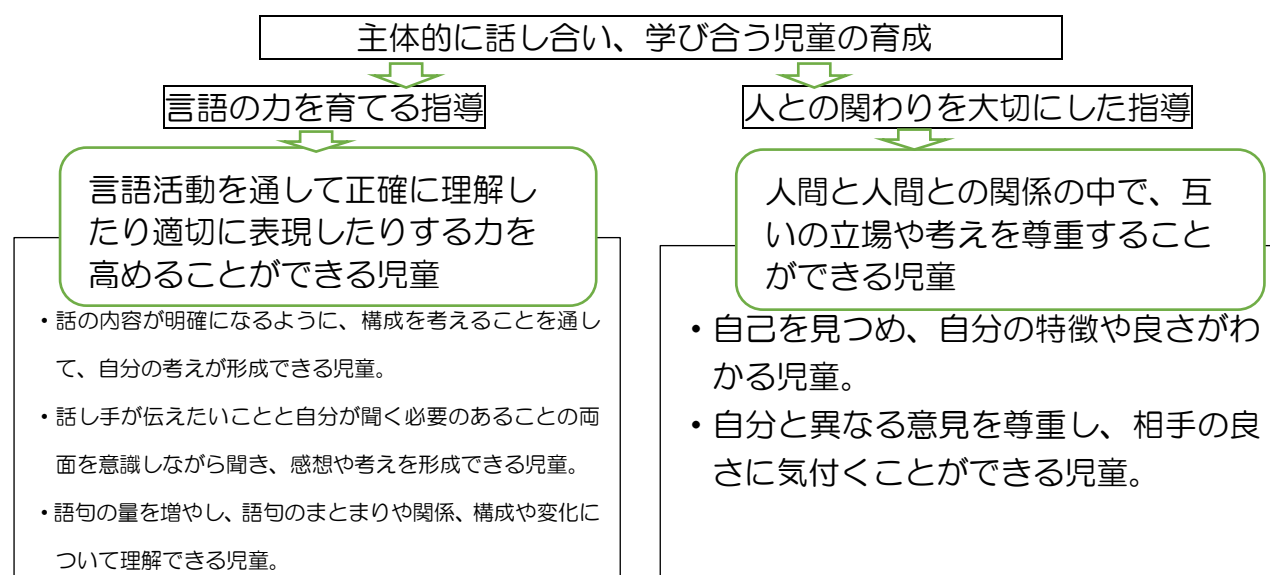
### ①児童の実態

昨年度までの2年間の道徳の研究を行い、「互いに認め合えるような心が育った」という意見が、各分科会からも出された。1人1人の心を耕し、安心して学習に臨むことができる温かい環境が定着しつつある。一方で、児童の実態として「自分の気持ちや考えを適切に表現する」ことに課題があるという意見が各分科会より出された。本校児童の日常生活を見ても、物事を話し合いで決める経験に乏しい。話し合いで使うべき言葉の知識（語彙力）、相手が何を言ったか聞き取る力、話し合って決定しようとする意欲の向上を図りたい。

また、現状の児童の実態から、伝え合う活動を充実させるにあたり、伝え合う活動に必要な言葉の特徴や使い方に関する習得が不十分であることから、語彙力の向上を主なねらいとした言語活動を重点的に取り組む必要があると考えた。

### ②育てたい児童像

小学校学習指導要領国語科の目標に、「伝え合う力を高めるとは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語活動を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることである。」とある。そこで、「伝え合う力を高める」には、「言語活動を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることができる児童」と「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重することができる児童」の2点が肝要であると考えられる。過去2年間の研究で、後者についての児童の育成に取り組み、一定の成果が得られた。今年度からは前者についての指導を計画的に進め、言語活動を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることができる児童の育成を目指す。



## 3 研究の仮説

相手意識・目的意識をもった言語活動の技能を身に付け、より良い話し方・聞き方を習得すれば、主体的に自分の考えを表現できるようになるだろう。

#### 4 研究構想図

##### 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

##### 保護者・地域の願い

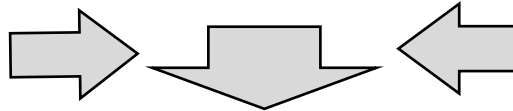
- ・ 友だちと仲良く、楽しい学校生活を送ってほしい。
- ・ 確かな学力を身に付けてほしい。

##### 東大和市立第六小学校 学校教育目標

- ◎よく考える子
- 力を合わせる子
- たかましい子

##### 教師の願い

- ・ 相手に対して思いやりの心を持ち、相手の意見を尊重できるようになってほしい。
- ・ 自分の意見を持ち、表現する力を育みたい。



##### 研究主題

### 主体的に伝え合い、学び合う児童の育成

～充実した言語活動を通して～

##### 研究仮説

相手意識・目的意識をもった言語の技能を身に付け、より良い話し方・聞き方を習得すれば、主体的に自分の考えを表現できるようになるだろう。

##### 目指す児童像

低学年	楽しく伝え合える児童
中学年	すすんで伝え合える児童
高学年	学び合って、高め合おうとする児童
けやき	伝えたいことを適切に表現しようとする児童